

企業日本語カリキュラム開発検討委員会
調査部会調査報告書

調査部会

I 報告書について

本報告書は、調査部会の調査結果をまとめたものである。本報告書の刊行の目的は、企業日本語カリキュラムの開発の目標であるカリキュラムや教材等の作成を行う研究部会に、ヤマハ発動機（株）IMカンパニーや従業員居住地区等で実施した調査や情報収集の結果を提供すること、企業日本語カリキュラム開発検討委員会の企業日本語カリキュラムの開発に資する資料を提供すること、並びに今後の浜松市や他地域での企業日本語カリキュラムの検討に資する資料を提供することにある。

1. 報告書の構成

本報告書の構成は、以下のとおりである。

- | | | | |
|----------------|------------|----|-------------|
| I 質問紙・訪問調査 1 | 意識調査に関すること | 文責 | (財)浜松国際交流協会 |
| II 質問紙・訪問調査 2 | 環境調査に関すること | 文責 | (財)浜松国際交流協会 |
| III 質問紙・訪問調査 3 | 学習調査に関すること | 文責 | (財)浜松国際交流協会 |
| IV 臨地観察・面談調査 | 言語調査に関すること | 文責 | (独)国立国語研究所 |

2. 調査の概要

企業における外国人労働者を対象とした日本語教育カリキュラムを開発するため、外国人を取り巻く現状と課題に関する情報を収集し、必要とされる日本語やコミュニケーションの場面を把握することを目的に、意識、環境、言語、実態及び学習に関する実態把握のための調査を行う。

3. 調査の種類

調査は、外国人と日本人両方に対しては 1.2.3 の 3 種類を、外国人に対しては 4 の 1 種類を実施する。

1. 意識調査

外国人が集住する地区と企業所在地区に在住する地域日本人住民の外国人に関する意識調査生活実態について、基礎資料を得るための調査を実施する。

2. 環境調査

外国人が集住する地区と企業所在地区にあり、外国人がよく利用する店舗の管理責任者、店員と外国人客との関わりについての環境意識について、基礎資料を得るための調査を実施する。

3. 学習調査

企業で派遣或いは請負の形態で働く外国人労働者の生活実態と日本語学習に対する意識について、基礎資料を得るための調査を実施する。

4. 言語調査

職場における外国人労働者の日本語と母語の使用（特に日本語を中心）について、基礎資料を得るための調査に関する。

※1.2.3.の調査は、萩丘地区⁹の萩丘と高丘、曳馬地区¹⁰の早出の 2 地区を限定に対象としている。また、2 地区の調査対象者数や条件等は同一ではない。これは、本調査が試行的であること、委嘱開始時期に

⁹ 萩丘地区（泉、萩丘、小豆餅、和合、高丘、高丘北、高丘東、高丘西、葵町、葵東、葵西、西丘、花川、初生、幸、住吉）

¹⁰ 曳馬地区（早出、曳馬、助信、高林、十軒）

より調査期間が短いこと、統計処理を目的としたものではないこと、調査対象者の選定抽出を限定したことによる。したがって、得られた調査結果で地域特性を見ることは目的としていない。

4. 調査員

(財)浜松国際交流協会の機関誌 HICE NEWS、新聞等を通じて一般公募を行い、日本語ボランティアとして活動している人、大学生、主婦、会社員など、一般の浜松市民を募集した。調査の場である浜松市の住民の協力を得て活動をすることは以下の理由による。

- 外国人と日本人の意識や環境に関する知見の獲得
- 実際の外国人の日本語使用場面の実態の把握
- 開発する企業日本語カリキュラムや教材等を実行する上での人材の育成と確保
- 浜松市における今後の日本語教育を考えるための人材の育成と確保
- 浜松市における日本語学習を支援する人的ネットワーク作り

5. 協力・共同

意識調査は、曳馬・萩丘地区の連合自治会の全面的な協力を得て行われた。環境調査は、調査活動に対して前向きな対応が得られた。言語調査は、ヤマハ発動機株式会社 IM カンパニーの調査環境の提供、国立国語研究所の調査の主導、浜松国際交流協会の人材の提供と日程等調整という連係（同意文書を三者で取交し）により実施された。また、同じく文化庁の委嘱事業を実施している(社)日本語教育学会の調査活動とも一部協力して行われた。

6. 調査対象のヤマハ発動機株式会社 IM カンパニーについて

調査の場所であるヤマハ発動機(株)IM カンパニーは、工業用ロボット、車いす、マウンター¹¹の生産を、他企業からの受注生産方式で行なう精密機器生産企業である。従業員数は、約 400 名(正社員 130 余名、派遣社員 250 余名、パート約 10 名)である。外国人作業員の比率は約 50 数%である。従業員は、マウンター生産部門 270 余名、ロボット部門 100 余名、車いす部門約 10 名、生産技術部門数名である。人員は、受注量により変動する。正社員の数は、受注量が最低の時期に必要な人数を枠とし受注量の増加への対応は、派遣作業員の人数で調整するシステムである。外国人作業員は、ほぼ派遣社員である。外国人の正社員は、中国、韓国等への販売に関わる翻訳担当事務に就く中国人や韓国人である。生産は、4年に一度の周期で忙しくなる。年間では、冬のクリスマス商戦への設備投資が始まる夏場が繁忙期である。工場は、浜松駅より車で 10 分強、遠州鉄道で浜松駅より約 10 分(運賃 120 円)の曳馬駅下車、徒歩 5 分強にある。工場内は、明るい、清潔、無臭、若干の工作機器音、適温。作業員は、制帽、作業服を着用。

7. 執筆者

堀 永乃 ((財) 浜松国際交流協会)

I 質問紙・訪問調査 1 ～III 質問紙・訪問調査 3

柳澤好昭 (国立国語研究所)

IV 臨地観察・面談調査 言語調査

¹¹ マウンター：家電等の機能を搭載するための基盤を作るための機械。